

特集

「子どもの貧困」

チャイルドサイエンスVol.18 「子どもの貧困」特集に寄せて

持続可能な貧困の撲滅に向けて

榊原洋一（日本子ども学会 編集委員長）

戦後日本は驚異的な経済発達をとげ、あっというまに世界の経済大国になった、という常識的な認識が私たちの中にあります。そして貧困といえば、アフリカや戦争地域の子どもたちに関連して流れるやせ細った子どもたち、というイメージがあります。日本にはそうした目に見える貧困はありません。

この貧困の一般的なイメージが、覆されつつあります。家計収入から推定した日本で貧困家庭で育つ子どもは、7人に1人であることが明らかになりました。環境が子どもの発達に及ぼすあまたの調査研究で明らかになっていることは、貧困は子どもの精神、身体発達のすべての面において、負の影響を与えるということです。

現在国連の提唱を受けて、17の領域において世界中が「持続可能な開発目標」の達成を目指して協力することが約束されています。持続可能な開発とは、一時しのぎの目標ではなく、世代を超えて持続するしなやかで力強い開発のことです。

17の領域のナンバーワンは、貧困の根絶です。貧困の根絶になぜ持続可能性が求められるのでしょうか。それは、貧困は一世代で終わらず、次世代、次々世代へと伝搬してゆくことが、明らかだからです。

本号では、世界が取り組むべき第一の目標である貧困とその撲滅を主題として取り上げます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

